

2026年度(令和 8 年度)学校評価自己評価表

幸千中学校区	校番 15	福山市立御幸小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月1日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	思考・創造力	表現力	思いやり	能動的市民性
○各校とも、地域の交流館、住民、企業、団体との連携を積極的に進めており、子どもたちにとって地域を深く知り、親しみをもつとても貴重な機会になっている。 ●CSの求めているものが、保護者や地域に十分伝えきれていない。もう少し積極的に発信できるとよい。 ●先生だけでなく、地域・保護者も一体となって取り組むことが大切である。	OCSの取組によって地域や小中の連携がより積極的に図られ、地域の行事やボランティア活動へ参加する児童・生徒が増え、そのことが児童・生徒のつながり、自信、地域への関心・愛着につながっている。 ●中学校区として、基礎的な学力の定着が図られていない児童・生徒や不登校児童・生徒数がまだ多い。	めざすこども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	○主体的に学び よく考える児童・生徒 ○ 思いやりのある児童・生徒	○ 自分なりに表現し伝え合う児童・生徒 ○ 人や社会に貢献しようとする児童・生徒	○ 住み続けられる町づくりを考えることを目的にした学習を核に各教科等と関連づけたカリキュラムを実施することで、めざす子ども像に迫る取組を行う。 ○ 生徒の実態を細やかに分析し、生徒のつまずきの要因に対応した指導と支援を行う。	

III 自 校

学校教育目標
自ら考え 行動し 挑戦する児童の育成 ～深く考え 進んで行動 新しいことに挑戦する～

現 状
<児童生徒> ・「授業で、友だちの考えを聞いたり友だちと話し合ったりすることが楽しい。」 89.2%・・・お互いの考えを聞いて学び合うことの楽しさを感じている。 ・標準学力調査 国語科で全国平均を下回っている学年5/6 算数科で全国平均を下回っている学年が4/6・・・基礎学力の定着に課題がある。 ・長期欠席児童 昨年度28名(一昨年度35名) <授業> ・「児童生徒に対してじっくり話を聞き、考える手助けができています」88.6%・・・中間より4.5ポイントアップ。授業の中で学ぶ手立てを工夫しながら授業づくりに取り組んでいる。 ・「人はどのように学ぶか、何につまづくかについて関心を持ち、教材研究を行っている」88.6%(市平均より10.1ポイント低い)・・・児童の実態を分析し、授業改善に生かしきれていく取組が不十分である。

育成する 資質・能力	思考力・創造力	表現力	思いやり	能動的市民性
めざすこども像	生きて働く「確かな知識」を身につけ、自分事として課題に向き合い、見通しを持って、調べたり考えたりしながら解決することができる。	「言葉」の力を高め、目的や理由・根拠をとらえ、相手意識を持ち、自分の考えを表現することができる。	多様な人と進んで関わり、お互いの立場や意見を尊重し、相手も自分も大切に、協働しながら生活を高めることができる。	当事者意識をもって課題をとらえ、学校生活をよりよくするために、仲間と協力して解決することができる。
研究	テーマ	算数科&国語科&生活科・総合的な学習の時間を中心に		
	内容等	感嘆符が生まれる授業づくりを通して生きて働く「確かな知識」を習得した子どもの育成 ～付ける力を明確にして～		
めざす授業の姿		児童が自分事として課題に向き合う中で、疑問(?)や気づき(!)などの感嘆符が生まれ、理解を広げたり深めたりする授業。		

福山市立御幸小学校

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
I	確かな学力を 基盤とした、学 び続ける力を 育成する。	★	新 規	自分なりの学び方 を獲得し、生きて 働く「確かな知 識」を身につけさ せることで、基礎 学力の向上を図 る。	・算数科の授業で 毎時間、適用題 に取り組む時間 を設ける。 ・チャレンジタイ ムで小テストの時 間を設け、児童 が自分の学びの 成果や課題を振 り返ることで、児 童が自らの学び を分析する。 ・宿題やチャレン ジタイムなどで下 学年の問題に取 り組み、やりきら せる。 ・児童の実態を把 握し、一人一人 の課題に応じた 学習活動を工夫 する。	・児童アンケート 「授業を通して考 えることで、分か らないことが分か るようになったり考 えが深まったりす ることとで学ぶ力 が高まった。」 80%以上 ・学期末到達率 (知識・技能)80 点以上(国・算) 75%以上									
I	互いに認め合 い、児童一人 一人が安心し て自分の可能 性を発揮でき る環境づくりを 行う。	★	新 規	多様な人との関わ りの中で、思いや りをもって主体的 に行動し、互いに 認め合う力を高め る。	・児童の頑張りや よさを紹介したり、 お互いに伝え合っ たりする活動を行 う。 ・係や当番、クラ ブ、委員会などで 主体的に活動し、 一人一人のよさを 発揮し活躍できる 場を与える。 ・不登校児童や不 登校気味な児童に 迅速に、継続して 対応し、その子に 合った登校の仕方 を考えるなど保護 者や関係機関と連 携して取り組む。	・児童アンケート 「友達のいいとこ ろを見つけること ができる。」(80% 以上) ・長期欠席児童の 数を昨年度よりも 減らす。	・・								

3	自分の生活習慣を整え、たくましい心と体を育成する。		見直し	食事や睡眠と共に、デジタル端末の利用や家庭学習の時間を意識し、よりよい生活習慣を身に付けようとする力を高める。	毎月、食事・睡眠・デジタル端末の利用・家庭での学習習慣を意識して過ごせているか自己チェックを行い、自分なりの目標をもって取り組ませることで、自分の生活について知り、気付く機会をもつ。それぞれの生活習慣を高めることの良さを児童や保護者に発信していく。	規則正しい生活習慣（食事・睡眠・デジタル機器の利用・家庭学習）が以前より改善された児童が80%以上。								
			見直し	自分の体（運動・健康・栄養）について知り、楽しみながら進んで運動に取り組ませることで、体力向上への意欲を高める。	自身のもつ体力を知るために新体力テストを全学年全種目行う。また、委員会などで体力づくりのための運動を紹介するなどして、学校の課題に応じた運動に日常的に取り組む。	学校の課題である敏捷性（反復横跳び）と瞬発力（50m走）が改善された児童が80%以上。								
1	協働的に子どもの成長を促す関係づくりを行い、地域に開かれ、地域・保護者から信頼される学校づくりを行う。		新規	地域の人や物を教育資源とし、地域との連携・協働をもとに教育活動を推進する。	生活科・総合的な学習の時間で、地域と連携・協働した学習活動を各学年で工夫し、設定する。密に連携をとり、コミュニティスクールを活用した教育活動を推進する。	生活科・総合的な学習の時間に地域と連携・協働した学習活動を各学年、年間2回以上設定し、実践する。								

[illegible]

[達成評価の評価基準]

評価基準	評価点
取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5
取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4
取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3
取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2
取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1

評価点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評価	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。